

「ピンチをチャンスに」……玉造中学校軟式野球部



玉造中学校軟式野球部は2年生11人、1年生11人の合計22人で、学校のグラウンドで活動しています。昨年から2年生が主体のチームですが、夏の印旛郡市総合体育大会(東印旛地区)で3位になりました。また、今月開催される全国大会に出場するチームと、秋の印旛郡市新人戦の3回戦で対戦し、敗戦したものの1対0の接戦でした。

練習では声を出すことを特に心掛けています。声をより意識するようになったのには苦い思い出が……。夏の印旛郡市総合体育大会(東印旛地区)の準決勝です。玉造中が1点先取し、リードしていた試合でした。4回裏の相手チームの攻撃で、ランナーを3塁まで進められると、動揺からみんなの声が付かないうちに出なくなっていました。そして、試合の流れが相手チームに傾き、2点を奪われて逆転されてしまいました。7回表に同点に追いついたものの追加点は奪えず、延長の末、負けてしまいました。そのチームは決勝でも勝ち、県大会に出場しました。

「ピンチの裏にチャンスがある」という言葉があるように、4回裏のピンチを乗り越えることができたなら、あの試合で流れをグッと手繰り寄せられたと思います。今はチームメイト全員があの時負けた悔しさを忘れずに、「ナイスプレー」「しっかり送球しろ」などと声を掛け合って練習をしています。



高津 雄介 部長(2年生)

ぼくたちは、グラウンド内を移動するときは走ります。だから歩くとグラウンドに失礼だと考えているからです。

4月から今年の大会が始まります。2年生にとっては、県大会出場へのラストチャンス。大会には、試合終了の瞬間まで大きな声で挑みたいのです。



捕球からの素早い送球



絶対に捕る!

素材のしなやかさを生かして

YOKORATANサークル

わたしたち「YOKORATANサークル」は、毎月第1・3水曜日に主に八生公民館で「籐工芸」を楽しんでいるサークルです。中央公民館の開館から程なくして開催された教室をきっかけに結成し、今年で32年目を迎えます。メンバーは女性7人で、指導は山口洋子先生にお願いしています。

わたしたちは、「籐」を使った軽くて丈夫なかごやバッグなどを中心に制作しています。長持ちするものが多く、使い込むほど手になじみ味わいが増すものばかりです。籐工芸の面白さは何といっても、1本のつるから、手編みで立体的な作品を作り出せるところにあります。

材料に使う籐は、主に東南アジアなどの熱帯地方に自生しているヤシ科のつる植物の茎で、「軽さ」「しなやかさ」と「強さ」という、相反する性質を併せ持つ貴重な素材です。古くから工芸品の材料として重宝され、日本では千年以上前から、その丈夫な特性を生かし、さまざまな柄などの武器にも利用されてきたそうです。



折れないように丁寧に

ただ、作業する際に注意が必要なのが、籐が苦手とする乾燥。

上前から、その丈夫な特性を生かし、さまざまな柄などの武器にも利用されてきたそうです。

籐は、水に湿らせるとひものように柔らかく加工しやすい一方、乾くと折れやすくなります。時折、水に浸しながら作業するなど、丁寧な取り扱いを心掛けながら作品づくりに取り組んでいます。

籐工芸では、色の異なる籐を交互に編んだり、カラフルな布など、異なる素材を編み込んだりすることで装飾に一工夫加えた作品を作ることのできるのです。自分で使うのはもちろん、親しい人への贈り物としても喜ばれています。興味を持った人がいましたら、一緒に楽しんでみませんか。



愛着ある手作りの作品を手に



小川 優維斗くん(7カ月)公津の杜

我が家のかわいいやんちゃ坊。最近、タオルで顔を隠して「いないいないばー」を披露してくれます。



眞山 美樹ちゃん(1歳・左)高岡
旺樹くん(4歳・中央)
天樹くん(5歳・右)

妹ができて、たくましくなったお兄ちゃん二人です。



山本 一輝くん(10カ月・左)土屋
千夏ちゃん(3歳・右)

とっても仲よし♪気付くとピタリくっついて遊んでいます(^_^)

このコーナーには市内在住で満5歳までのお子さんの写真を掲載しています。お気に入りの1枚が撮れましたら、ぜひお寄せください。

- 応募方法 お子さんの写真に住所・氏名(ふりがな)・生年月日・親の名前・電話番号・30字程度のコメントを添えて広報課へ
- 応募先 〒286-8585 花崎町760 成田市役所広報課
- 問い合わせ 広報課 ☎20-1503